

# 高機能自閉スペクトラム症児の集団内での役割獲得過程 —保育園における観察事例から—

17010PCM 宮本 俊良

## 問題

### 1. 保育園における自閉スペクトラム症児

1980年代以降自閉スペクトラム症(以下ASD)診断を受ける児童が増加し、先行研究では未診断を含めて統合保育を行う保育園児童の2.58%がASDであると示されている。また同時に、いわゆるグレーゾーンの子どもたちへの支援も課題となっており、ASDとADHDや愛着障害との鑑別とその対応が課題となってきた。

### 2. 統合保育におけるASD児支援の考え方

先行研究では、それらの鑑別を含めたアセスメントと理解、対応を考える上で、ASD児とADHD児、愛着障害児を保育現場で判別するためのスクリーニングチェックリスト、ASD症児への対応基本三原則、ASD児の集団参加プロセスモデル、描画に現れる自己イメージの発達プロセスモデル等が示されてきた(後藤・大見, 2007; 木村・後藤, 2009等)。

### 3. 集団参加過程における役割獲得

ASD児の集団参加過程において、役割獲得は重要な要素の一つである。通常役割獲得は他者の内的特性を推測する能力が基盤となるが、その能力に課題のあるASD児においては、通常とは役割獲得過程が異なるものと想定される。

## 目的

本研究では、保育園における集団参加過程という視点から、ASD児2名に関与観察を実施し、ASD児に特徴的な役割獲得のプロセスを明らかにすることを目的とする。

## 方法

### 1. 観察対象者

A保育園のB組に所属するASDの診断を受ける男児1名(アキラ)、女児1名(ミサキ)を観察の中心とした。また、その2名と関わるB組27名の園児と保育者も観察対象とした。なお、子どもの名前は仮名である。

## 2. 観察の構造

### 1) 実施時間と頻度

A保育園B組における午前の活動に参加し関与観察を実施した。頻度は原則月に2回、1回約3時間とし、X年12月からX+1年11月までの約一年間計21回実施した。観察開始時は4歳児クラスであった。

### 2) 収集したデータ

①“対象児の行動観察”“対象児と交流する子どもと保育者の行動観察”について関与観察を行い、逐語的に文章で記録した。②各観察回ごと担任保育者と相談しクラス全員の関係性を表す“関わり図”を作成した。③対象児の描画を中心に自己表現作品を写真で記録した。④対象児2名の発達状況を確認するため遠城寺式乳幼児分析的発達検査を実施した。⑤観察回ごとに、担任保育者または施設長にインタビューを行い、“対象児・クラスの変化”“保育上の方針と配慮”等について聞き取り調査を行った。

## 結果

まず2事例の発達状況を捉えるため、観察記録と描画をASD児の集団参加プロセスモデルと描画に見られる自己イメージの発達プロセスモデルに基づき筆者を含め2名で評定し、ケンドールの一致係数を求めた。結果は、集団参加プロセスにおいて、 $W=.976$ ,  $\chi^2=21.47$ ,  $p<.05$ で、自己イメージの発達プロセスについて、 $W=.910$ ,  $\chi^2=20.03$ ,  $p<.05$ で有意に一致した。

### 1. クラス全体の発達

クラス全体としては、対象児2名をクラスの一員として受け入れており、徐々に保育者から離れて子どもだけの小集団で遊ぶことが増加し、集団としてまとまりが生まれていった。

### 2. アキラの集団参加過程と役割獲得

アキラは観察を通して保育者との関わりを継続的に保ち支援を引き出しながら成長していっ

た。電車に強い興味を持つアキラと同じように電車好きのタイセイや保育者との間で、電車や運転手などの役割をとることを通して、他児との間で役のある遊びに参加し、集団参加プロセスもおおむね順調に発達していった(図1)。自己イメージについても、錯画からロボット掃除機や洗車機などを経て徐々にまとまり、保育者や友達など他者イメージも現れはじめ順調に発達していった。

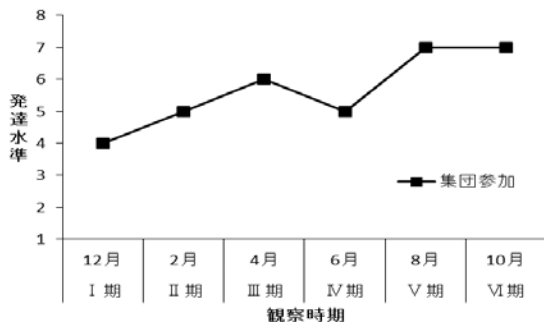


図1.アキラの集団参加過程の経過。

## 2. ミサキの集団参加過程と役割獲得

ミサキの事例では、観察初期から大人と離れて子ども集団の中で遊んでおり、アニメのヒロインであるプリキュア等になることで役割をとろうとするものの、役と一致する行動がとれない等、うまく役割をとって遊びに参加することが出来なかった。その後保育者の援助を受けながら店員ごっこなどに参加して役割をとり始め、集団参加プロセスも進展していった。自己イメージの発達について、ミサキは観察初期からプリンセス等のキャラクターになりきって行動していたが、徐々に子ども同士の関係の中でも現実的な自己像が描かれるようになっていった。

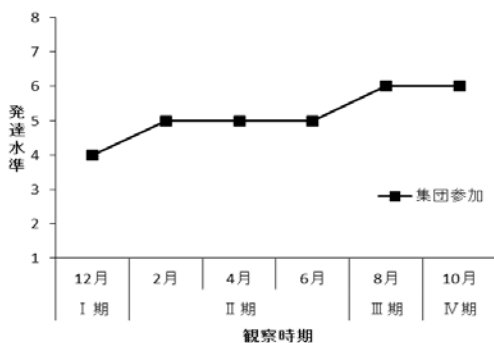


図2.ミサキの集団参加過程の経過。

### 考察

2 事例に共通して観察された役割獲得の特徴は、

自己イメージと見られるキャラクターになりきることが役割獲得に繋がる過程と、他者の行動模倣が役割獲得に繋がる過程がみられた点である。この二つの過程は2人に共通してみられたものの、アキラでは2つの過程による役割獲得がみられたが、ミサキの事例では自己イメージを基盤とした役割獲得がうまくいかず、他者の行動模倣を通じた役割獲得が多く見られた。このことから、役割獲得に関わる要因として自己イメージの明確さ、キャラクター選択、周囲の影響という3つが考えられる。まず ASD 児の役割獲得において、具体的な行動をイメージ出来ることが重要であり、キャラクターになって役割をとろうとした際、キャラクターの行動パターンやその機能についての意味理解がある程度明確で、それになりきって行動している場合には役割獲得に繋がっていた。しかし、それが出来ない場合には役割獲得に至っておらず、自己イメージの明確さが役割獲得の重要な要因であると考えられる。また、キャラクター選択の特徴として、初期のアキラでは電車やルンバ等の機械類が選択され、ミサキではプリキュアなどの人に近いキャラクターが選択されていた点や、2名とも徐々に現実の人に近いキャラクターへ変化していった点が挙げられる。自己イメージが現実の人に近づくことは、実際の対人場面で応用しやすい行動パターンを取り込める点で有用であると考えられる。しかし、ミサキの場合では、ルンバ等と比べてプリキュア等のキャラクターは複雑で、行動の意味や具体的な行動パターンが取り込みづらく、役割獲得に繋がりに難かったと考えられ、キャラクター選択も役割獲得の重要な要素であるといえる。また、同一対象児でも相手の違いや関係性の変化、遊びの種類や内容、保育者の参加の有無等、周囲の環境によって多くの影響を受けていた。

最後に、これらの過程により役割が獲得されることは、ASD 児の持続的な集団参加を支えるとともに、ASD 児が周囲の他者の行動を取り入れたり、学習する機会を増やすことになり、より質の高い役割取得、社会的スキルの獲得、および集団参加の基盤となると考えられる。